

「関西広域農林水産業ビジョン（案）」に対するご意見・ご提案と関西広域連合の考え方

平成25年9月

関西広域連合広域産業振興局農林水産部

「関西広域農林水産業ビジョン（案）」に対する府県民意見等を募集した結果、2名から延べ2件（うち意見の公表を望まないもの0件）のご意見・ご提案をいただきました。

いただいたご意見・ご提案に対する関西広域連合の考え方は下記のとおりです。

整理番号	ご意見・ご提案	関西広域連合の考え方
1-1	<p>農業改革が進まない理由は、①儲からない、②農地の流動性、③物流システムが古い、などが考えられる。</p> <p>①の改善策として、生産規模拡大や計画生産などがある。</p> <p>②の改善策として、農地を集中管理する公益法人を設け、地域農地の共同管理を行うことが考えられる。</p> <p>③の改善策として、生産規模に合わせた地域物流加工センターを設けることが考えられる。</p>	<p>関西広域連合では、構成府県市と連携し、連合として取り組むことでシナジー効果が見込まれる事業や、関西が一体となって取り組むべき事業などについて、実施可能な範囲でその役割を果たすこととしています。</p> <p>今回、いただきましたご意見・ご提案は、その多くが府県市が主体的に検討すべきまたは取り組むべき内容でありますので、各構成府県市に伝えて参ります。また、広域連合としましては、府県市が取り組む農地対策、担い手育成、優れた経営体の育成等に対し、ビジョンに掲げました6つの戦略において、具体的にどういった連携ができるのかについてしっかりと検討していきます。</p>
1-2	<p>花き業界の立場で農業全体を見た意見を述べる。</p> <p>ビジョン案に真新しさは無い。もっと深い所にメスを入れ、やる気のある個人を鍛え上げるための政策が戦略として必要。</p> <p>研究開発： 事業体が求める研究に事業体と共に取り組むことが必要。</p> <p>消費拡大： 利便性・合理性だけを追求するのではなく、人々の心を豊かにする産業として農林漁業を育成すべき。また、農林漁業のそういった機能を広報するべき。</p>	

海外販売戦略： 海外の富裕層のみへのアプローチだけでなく、非富裕層へのアプローチも必要。

流通（市場・農協）： 市場法や農協法を根本から作り変え、自ら価格設定し、自立した競争力ある産業にすべき。

後継者問題： ハード面の助成ではなく、ソフト面の助成が必要。特に、税制面での優遇措置が必要である。また、地域ファンド制度などを設けて、新規就農者などに対してソフト面の助成を行うことが必要。

人材育成： 農業高校を5年制の高専にし、十分な専門技術を習得させる。また、海外からも生徒を募集し、世界的な視野を身に付けさせる。

行政の役割： 事業所を審査し、承認した事業所を育成する取組が必要。ハード面ではなく、育てるためのシステムが必要。

地産地消運動の推進： 事業体に地元消費者ニーズを研究させ、マーケティング能力を身に付けさせることが必要。

ビジョンの実現のためには、時間がかかっても人の育成が必要。個が力を付ければ、人が集まり、志も高まる。志が高まれば、経営が安定し、他分野・他地域との交流も盛んになり、防災や安全面においても国民が求める農業を実現できると痛切に感じる。